

就学前(幼児)・導入 ●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

いのちは、いくつある？

効果・ねらい **“いのち”について考える**

いのちにかぎりがあることを伝え、
そのかけがえのないいのちを守ることの大切さに気づかせる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

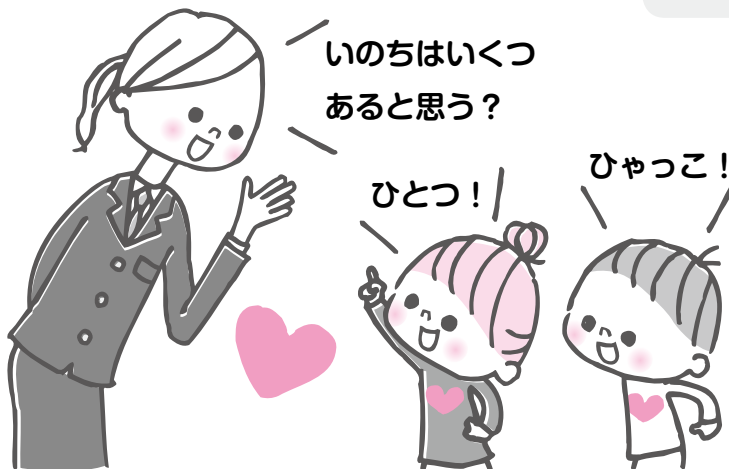
【指導方法】

- 子どもたちに、“いのち”について問いかける。
- 自由に発表してもらおう。
「ひとつ!」、「ふたつ!」、「ひゃっこ!」、中には、「テレビの〇〇は、いのちがいっぱいあるよ。死なないよ!」—などと、いろいろな声が出てくることも。
ここでは「自分のいのちは一つしかない」ことと、「いのちはだいじなもの」であることを、なんとなくでも子どもたちに感じてもらうことが大切。
- 子どもたちの答えを受けるかたちで、再び問いかける。子どもたちに順に手をあげてもらおう。
- 最後に、答えと共に“いのち”を守ることの大切さを伝える。

【指導者の声かけ・ヒント】

- 「今日は、みんなで“いのち”のことを考えてみようと思います。みんなは、“いのち”はいくつあると思う？ 自分のいのちは、いくつあるかな？」
- 「それじゃ、“いのち”は一つ（二つ、三つ、百こ、など）だと思ふ子、手をあげて!」
- 「じつはね、“いのち”は一人に一つずつあるものなんだよ。みんなも、一つずつ持っているの。だから、もし“いのち”がなくなっちゃったら、たいへんなことになっちゃうんだね。ケガをしたり、怖いことにあったりして、“いのち”が傷つけられると、いやだよ。たった一つしかないだいじな“いのち”だから、みんな、大切にしようね」
- 「それでは、今日は、そのだいじな“いのち”を守るにはどうしたらいいかというお話をします……」

- 展開につなげる。



就学前(幼児)・導入

●所要時間 約5分 ●準備するもの パネル数枚

大きくなったら何になる？

効果・ねらい 成長することのよこびを感じる

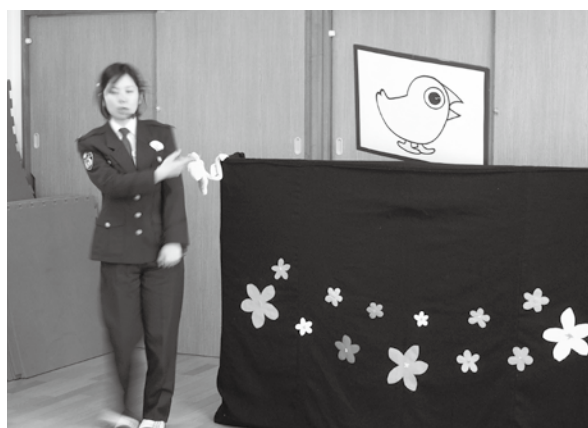
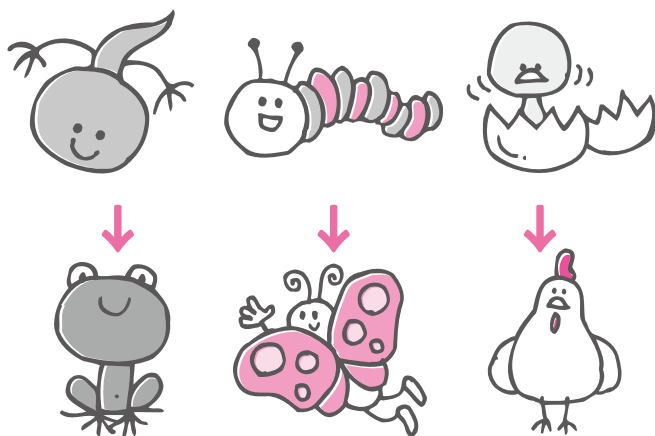
身近な生き物が大きくなること（成長の変化）への関心を引き出させ、自分が大きくなったときのイメージにつなげる。
自分のゆめを膨らませ未来に希望のイメージを持たせたあとに、そのゆめを叶えるために命を守ることが大切だと気づかせる。

【指導方法】

- 指導者は、まずオタマジャクシのパネルを見せ、子どもに問いかける。
- 「オタマジャクシ！」という声が返ってきたら、再び子どもに問いかける。
- 子どもたちに自由に答えさせてから、カエルのカードを見せる。オタマジャクシのパネルの裏にカエルを描いておいて、答えと同時にクルッと返してもよい。子どもたちの「当たり！」とか「やったー！」などいろいろな反応を見ながら、次のパネル（アオムシ&チョウチョウなど）に移る。
- 最後に、子どもたち自身に「大きくなったら…」と問いかける。この問いに決まった答えはないので、自由に発表させる。
- 大きくなって、自分のなりたいものになるためにも、いのちや体を守ることが大切なことであることを伝える。

【指導者の声かけ・ヒント】

- 「みんな、これは何か知ってる？」
- 「そうだね、池や田んぼにいるオタマジャクシだね。みんなは、見たことがあるかな？ じゃあ、これが大きくなったら(大人になったら)、何になるかな？」
- 「オタマジャクシが大きくなると……こうなります！」
「大きくなるってすごいね。たのしいね」
- 「みんなは、大きくなったら何になる？」
- 「みんな、○○とか□□とか、いろんなものになりたいんだね。そういう好きなものになるために大切なことって何かわかる？ もし、ケガや病気をしたり、事故にあって体が傷ついたら好きなものになれなくなるかもしれない。だから今日は、みんなが元気に大きくなるよう、みんなの体やいのちを守るための、だいじなお話をします。よく聞いてくださいね……」



埼玉県警察本部 生活安全企画課 防犯指導班「ひまわり」による参考事例

就学前(幼児)・展開 1

- 所要時間 約15分
- 準備するもの パネル3枚 ①②③ (次ページ参考)

危険をさけるお約束

①一人にならない ②ついていかない ③“いや・助けて”と大きな声で助けを求める

効果・ねらい 危険回避 / 意思表示

異常を察知したときの危機回避対応として、きっぱりと断ることの大切さと、その断り方の良い例について考えさせる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

- 園児に“外で気をつけること・親から言われていること”を、自由にあげてもらおう。それを活かす流れで、パネルの内容に入っていく。
- 1枚ずつパネルを見せ、絵からみえる内容をそれぞれ子どもたちから引き出しながら、「3つの約束」へ導いていく。

約束① 「だれかがくるよ!」とか、「早く帰らないと、暗くなっちゃうよ」など子どもの声を受けつつ、“昼間でもだれがどこでみんなのことを見ているかわからないので、一人にならない(遊びに出ない・残らない)、一人になることあったら気をつける”ことを伝える。“大人(保護者)から離れないようにする、いっしょにいればだいじょうぶ”と、子どもが安心する声かけも。

約束② 「行っちゃダメ!」、「ウソだよ!」などの声を受けつつ、“突然声をかけられたら、見た目では地域の良い人か、それとも悪い人かわからず不安なので、安全な間隔をとって話を聞く”こと、“もし今いる場所からどこかへつれて行こうとする話がでたら、みんなをどこかに連れて行って悪いことをしようとしているかもしれないので、どんなことを言われても絶対についていかない。「いらない」「行きません!」と言う”ことを伝える。

約束③ 「助けてっていう」、「大きな声を出す」などの声を受けつつ、“突然手をつかまれたり何かされそうになったら、大きな声で「いや!」、「助けて!」と叫んで助けを求める”ことを伝える。大きな声を出すだけでなく、その場にはいないですぐ逃げるよう付け加える。

【指導者の声かけ・ヒント】

● 「外や公園でお友だちと遊ぶときに、気をつけなくちゃいけないことは、どんなことかな? お母さんやお父さんと約束していることがあるかな?」

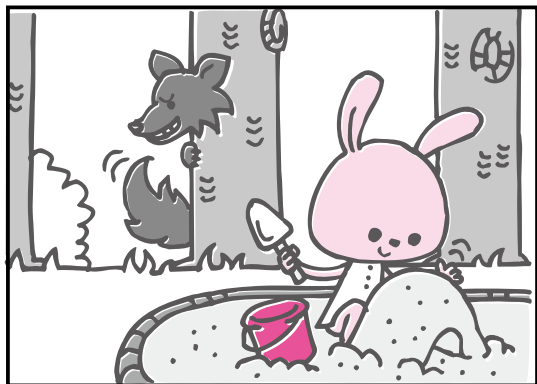
● ① 「女の子が、お家の近くの公園で遊んでいます。あれ、お友だちがいないね。先にお家に帰ったのかな? でも、この子は(例:砂場のトンネルをつくっているところで)、まだ公園で遊びたいみたいだね。あれ、後ろのほうに(だれかが)……?」

● ② 「知らない人がきて、「向こうにかわいい子犬がいる(例:お菓子をあげる、友だちが遊んでいる)から見に行こうよ」と、言っているよ。みんなだったらどうする?」

● ③ 「知らない人に、連れていかれそうになったり、怖いと思ったらどうする?」
※パネルをおさらいした後、ロールプレイとして、実際に子ども(2~3人)に出てきてもらい、指導員が知らない人(不審者)役になって、②や③の練習をしてもよい。

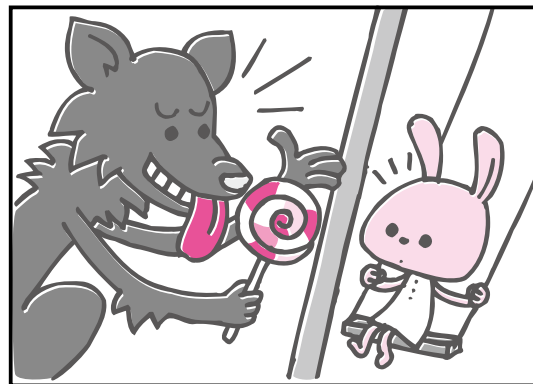
- 再度パネルを見せて、おさらいをする。

危険をさけるお約束 (参考)



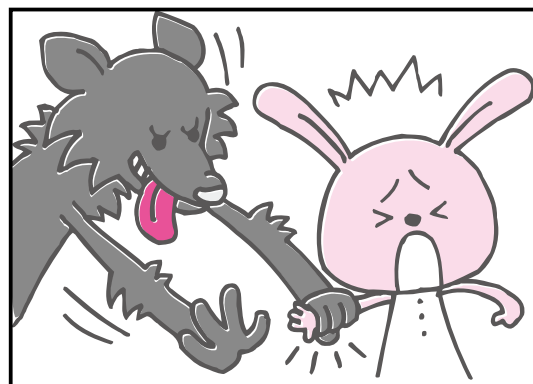
子どもが公園で一人で遊んでいる

→ 一人にならない



とつぜん声をかけられている

→ ついていかない



とつぜん腕をつかまれている

→ 「いや・助けて」と
大きな声で助けを求める

※中には、このような内容の話の聞いたり、ロールプレイの様子を見るだけで怖がる子もいるので、指導側は見せ方、話すときの表情、声のトーンなどには十分に気をつける。「楽しみながら覚える」感覚で指導を。

就学前(幼児)・展開 2

●所要時間 約45分
●準備するもの ホワイトボード、マグネット式のパネル2枚
(次ページA・B参考)

危険な場所って、どんな場所？

効果・ねらい 危険予測 / 危険回避

自分の生活に使う道について再考するきっかけをつくり、危険な場所に気づく力をつける。できるだけ安全な道を選んで歩く力をつけるとともに、危険な道ではそれに気づいて用心して歩けるようになる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

●子どもたちに、「道を歩いているときに、だれかに連れていかれてしまわないようにするためには、どうしたらいい？」と問いかける。挙手して、一人ずつ解答してもらいながら、「危ない場所に近づかないようにすれば、怖いめにあいにくくなるよ」という答えに導く。

●次に、「じゃあ、危ない場所って、どんな場所だと思う？」と問いかけ、子どもたちに答えてもらう。「かくれんぼするとき、隠れやすい場所が危ない場所。そういう場所にはだれかが隠れていて、悪いことをしようとしているかもしれないから注意しなければならないんだよ」と、導く。

●「これから見せる絵の中で、かくれやすい場所を見つけよう」と声をかける(次ページのイラスト・パネルA)。子どもたちが以下のようなポイントに気づくようヒントを与え、ポイントに気づいたら、解説をしていく。

【指導者の声かけ・ヒント】

●予想できる解答としては、「大声を出す」、「一人にならない」などがあるので、これらも確認しながら、気づいてほしい答えに導く。

●予想できる解答としては、「高いところ」、「車がたくさん通る道」などがあるので、これらも否定しないように、相づちをうちながら、気づいてほしい答えに導く。

※注意：道路では、ほんとうはかくれんぼをしてはいけないこと、遊んではいけないことも補足する。

●予想できる解答としては、「塀」、「木」などがあるので、「いいところに気づいたね。こんなふうに、高い塀や木があると、家の中の人からは道路が見えないから、何かあってもわかりにくいから危ないね」と、声をかける。

【隠れやすい場所・その1】

◎車の中や、車の陰、高い塀、木の陰など

「車の中や、車と車の間、車と塀の間は隠れやすいね。そういうところにだれかが隠れていて、みんなの手をつかもうとするかもしれない。だから、すぐに手をつかまれないよう、車からは両手を広げたくらいの距離をとって歩か、道の反対側を歩くようにしようね」

◎「車がたくさん並んでとまっているね。こういう道、見たことある?」、「こういう道を通るとき、どんな気持ちになる?」、「怖い? どうして〈怖いな〉と感じるんだろう?」

【隠れやすい場所・その2】

◎カーブしている道の先

「道のずっと先の方が曲がってカーブしているね。そうすると、先の方が見えにくくなっているから、そこにも隠れることができるね。急にだれかが出てくるかもしれないから、用心してね。〈なんか変だな?〉と感じたら引き返して、大人に知らせようね」

◎「この道の先の方、よく見えるかな?」

*左にあげた2つのポイント以外にも、「人が歩いていない」、「あかり(外灯)が少ないから夜は暗いだろう」などの危険なポイントがあげられるよう、自由に発言させてみる。

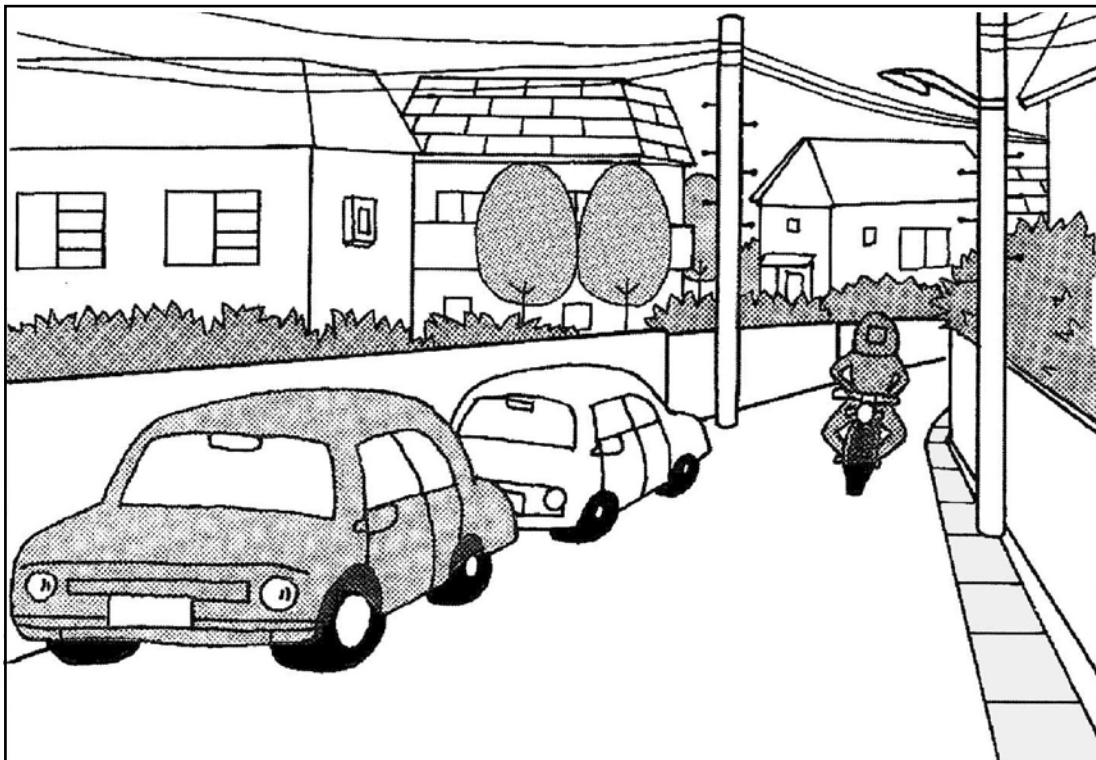
*道を歩くときの交通ルールについても、同様に確認することが重要。

◎まず、パネル A を見せて、道路について学習する。

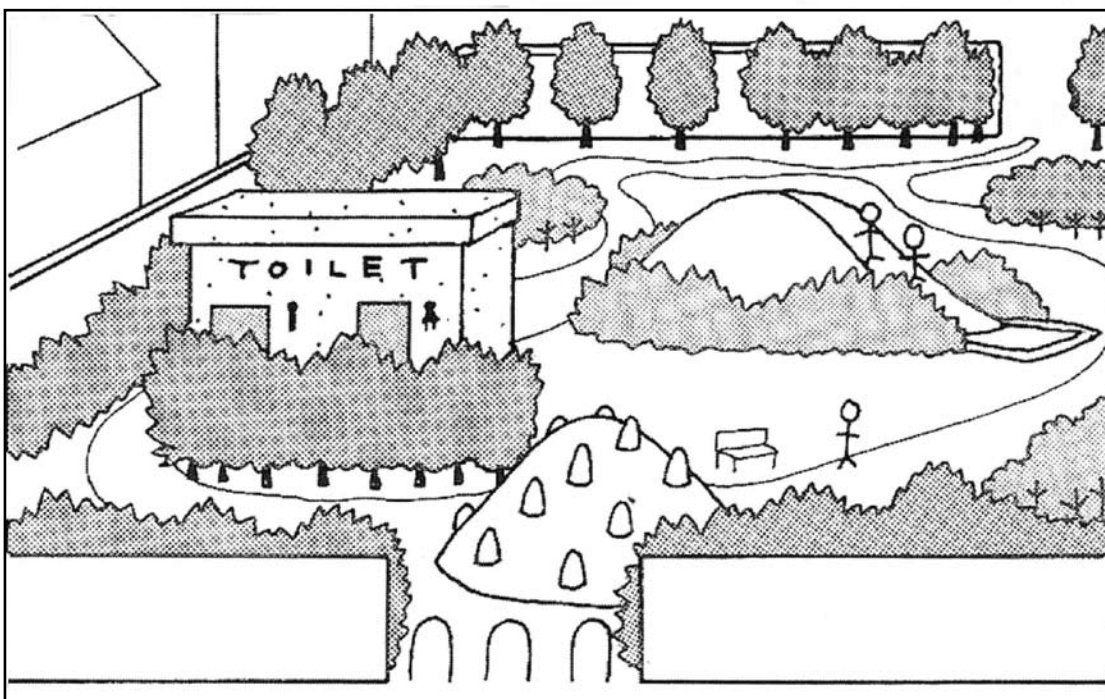
その後、同じようにパネル B を使って、公園についても話し合ってみる。

※このパネル A・B のイラストを拡大コピー、または参考にして模造紙や画用紙に描き、ホワイトボードに貼って使ってもよい。

パネル A



パネル B



*イラスト：『危険回避・被害防止トレーニング・テキスト～読んで考え、歩いて学ぶ生活安全教本～』（小宮信夫・監修 横矢真理・著／栄光）より

応用 **公園パネル「クマちゃん探し」** 危険予測／危険回避

「危険な場所って、どんな場所？」で道路について話し合ったのと同様に、以下のような大型パネルを使って、作業をしながら公園について話し合うこともできる。

大きな流れ

就学前
(幼児)

① 防犯教室を始める前に、次ページにある〈ベース〉イラストの上に、〈パーツ〉のイラストを切り分けたものを貼りつける。配置は、下の〈クマを見つける作業前・危険度の高い公園〉イラストを参考。

[ベースに描きこまれたクマを隠した状態にする／フェンスは高い塀にし、入り口左・塀前には車を駐車させ、車の陰には移動可能なクマを1匹隠す／遊具は大型にし、樹木は伐採されていない状態にする／〈パーツ〉左上・三角のパーツは、公園の周囲の家の窓を開け、見守ってくれる視線を取り入れるポイントにする]

小学校
低学年

② 「クマが隠れている場所＝見えにくい危険な場所」ということを説明し、子どもにクマ探しをさせる。人が見ていない場所では、人は悪いことをしやすいことを説明する。

③ クマを見つけながら、その場所がどう改善されたかを話し合う。「高い塀をフェンスにしたら、外からも中からも見えやすくなったね」、「生い茂った木をきれいに切って花壇にすると、お花に水やりに来る人がいるし、きれいになって、悪いことをしにくくなるね」などと説明する。

小学校
中学年

④ さらに、もっと安全にするにはどうしたらいいかを考えさせながら、〈クマを見つける作業前〉イラストでは倒れていたゴミ箱を、きちんと立ったものに交換する。ガードレールや外灯も設置する。これも気づいた子どもに貼りつけさせるとよい。

小学校
高学年

その後、自分の家の近くの公園について話し合う。「見えにくいところには行かないこと」、「公園のトイレに一人で行かないこと」などの注意もしておく。



〈クマを見つける作業前・危険度の高い公園〉

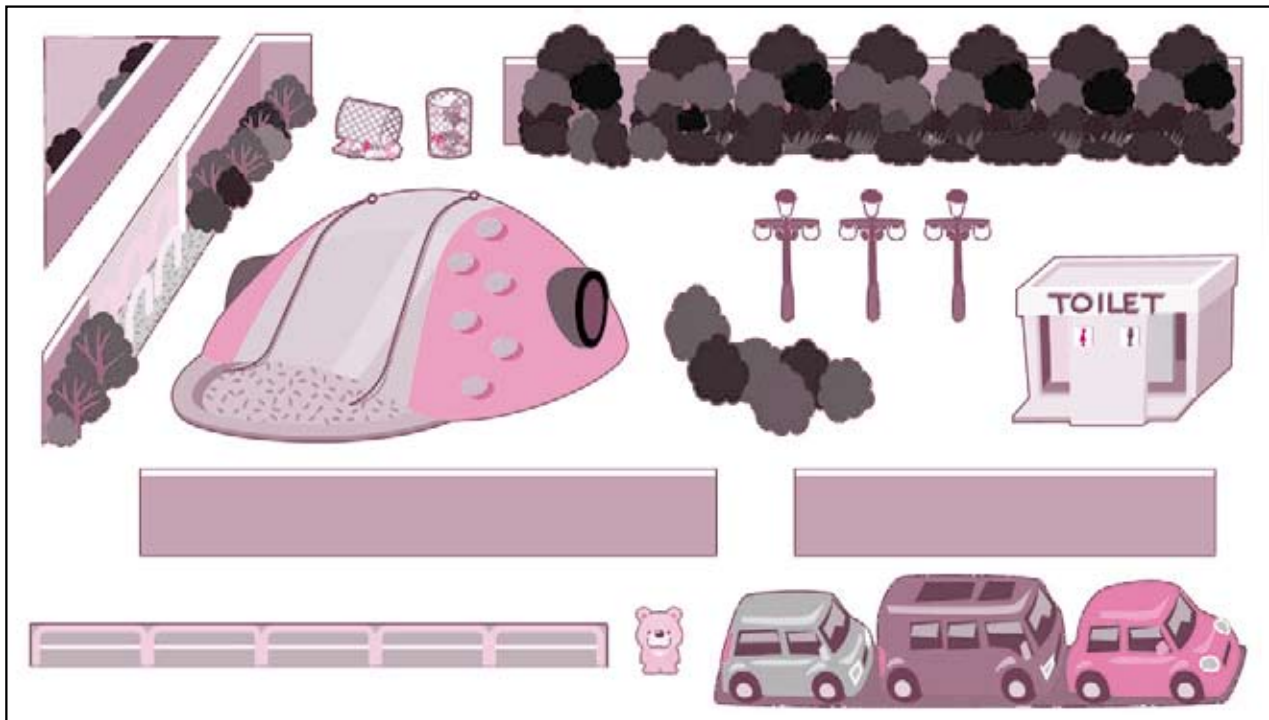
子どもが作業する前の〈ベース〉上に、切り離れた〈パーツ〉を貼りつけた状態。遊具などのパーツをはがしながらクマを探せるように、両面テープやセロテープでくふうする。〈ベース〉、〈パーツ〉共に、マグネットシートにすると使いやすい。

※この2枚のイラストを拡大コピー、または参考にして模造紙や画用紙に描き、ホワイトボードに貼って使ってもよい。

〈ベース〉…基本になるイラスト。見通しの良い公園。



〈パーツ〉…切り分けて、〈ベース〉上に貼りつけて使う。
ゴミ箱は、まず倒れたものを〈ベース〉上に置いて、後で貼りかえる。
防犯灯とガードレールは、クマ探しが終わった後で貼る。



イラスト：©子どもの危険回避研究所

就学前(幼児)・展開 3

- 所要時間 約15分～20分
- 準備するもの ロープ、ヒモや縄跳びなど。

人と話すときの距離を覚える ～パーソナルスペースの取り方～

効果・ねらい 危険回避 / 意思表示

近づいてくる人を「良い人か・悪い人か」判断するのは大人でも難しい。相手が不審な行動に出たらいつでも逃げられるようにしておくことが大切。そのためにも「相手に近づきすぎないこと」を知り、安全な距離（パーソナルスペース）をとることを体験的に学ぶ。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

●代表の子ども(一人)に、前に出てきてもらう。相手との距離が近くなるとどんな気持ちになるか、ロールプレイして聞いてみる。

●指導者は子どもと向かい合って立ち、「前へ習え」をする。お互いの指先が触れない距離まで離す。

●指導者が不審者役になり、この距離まで離れば不審者が手を伸ばしても子どもに届かないことや、子どもは手が伸びてきたのを感じてから逃げても間に合うことをロールプレイで見せる。

●指導員はこの距離を保った位置で、ロープを自分と子どもの腰に結ぶ。この状態ではロープがピンと張っていることを子どもたちに見せる。(=安全な距離)。もしロープがたるんだら距離が近づいていることを意味し、危険な状態になることを理解させる。

●ロープがたるんだら代表の子に教えてあげようと、周りの子の参加を促してから、不審者役の指導員は言葉巧みに子どもにさりげなく近づく(二人の距離を縮めようと試みる)。代表の子どもはさりげなく後ろにさがり、常にロープがぴんと張っているように意識させる。

●慣れたら、ロープを外して試してみる。

●何人かの子どもに出てきてもらい、同じようにやってみる。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「良い人か悪い人か、見た目で決めるのは難しいね。声をかけてくれた人が、本当は地域の優しい人だったら申し訳ないし、かといって悪い人でもニコニコしながら声をかけてくることもあるよね。さて、どうしたらいい？」

「つかまえられるかも、と思ったときに、いつでもすぐに逃げられるように準備をしておくといいね。そのためには相手に近づきすぎないことが大切なんだよ」

●「どれくらいが安全な距離(間隔)なんだろう？ 代表の子にやってみてもらおうね」

●「どうだった？ どれくらい近づいたときに怖いと感じた？ どれくらい離れたら安心した？ その安心の距離をみんなに伝えるためにいい方法はないかな？」

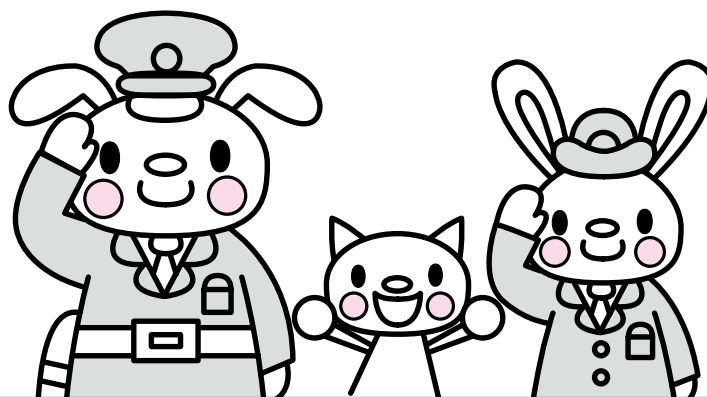
●「だれかとお話するときは、“前へ習え”をした手がぶつからないくらいの位置でお話するといいね。知らない人だったら、もっと遠くに離れようね。

はじめからこのくらい離れていれば、もしつかまえられそうになっても相手の手が届かないし、すぐに逃げることができるね」

●「二人をよく見て、もしヒモがたるんでいたら、みんなで“たるんでるよ”と、教えてあげようね」



就学前(幼児)・まとめ



【基本】

防犯意識を高め、定着させるためにも、

- その日習ったことの要旨をふりかえらせる。
- 習ったことを、友だちや家の人と、生活の中で話し合う機会を持たせる。

ポイント

- その日習ったことのおさらい(ふりかえり)は、
大人(指導者や保育士)が子どもたちに要点を言葉で伝える。

※人形劇や紙芝居などを利用して、楽しく“防犯や安全について”見せているつもりでも、中には怖がる子や、泣き出す子がいるかもしれません。安全・防犯教室開催中は園の職員と連携を取りながら、子どもの表情や様子にじゅうぶん気をつけましょう。

※おさらいはポイントをしばって短く、わかりやすく、やさしく。指導者が復唱します。

※怖がって泣いたり表情が変化した子、無口になった子などには、後で個別に言葉かけをしてフォローすることが大切です。

〈参考：しめくくりのことば〉

「今日学んだことで、お外に出るのが怖いと思う必要はありません。

みなさんの近くにはお家の人や先生やおまわりさんなど

いつもみなさんを守ってくれる人がいるから安心してくださいね」